



# 施設と子ども

及川ふみ

幼稚園の施設設備、広い敷地、美しい園舎、かずかずの保育室、いろいろの新しい設備など、近代的なモデルケースの幼稚園が、それぞの関係者たちのなみなみならぬ努力によって新設せられた。おんばろ園舎で不自由な毎日をすごしている先生方や、狭い保育室でごちやごちや、大せいの幼児がこみあって遊んでいる幼稚園の先生方が、そのすばらしい園舎、設備の様子を、写真や、あるいは実物で見られて、ああうらやましい、とかん声をあげられた方もいくたりがあつたことと思われる。

隣のこちそうには実際羨望やる方なしという心境もあることであるから、なるほど見かたによればそもそもないし、うらやましくもあり、望ましくもあるのである。

しかしこのことは、見かけによらないものもあるといふこともあ

る。こんな見事な新園舎にいる先生方がはたして、日常の保育の上に、近代的施設を十分に利用して、保育的効果をあげているかどうかは、また別の問題であることも考えられる。

先生方の能率向上の点での功罪の外に、そこにいるご主人である幼児たちにこの新しい幼稚園が、その遊びにどれだけの満足を与えていたるだろうか。新しい園舎ならびに設備についての子どもたちの評価はきききずにはできないものがある。

## 砂場

あるモデルケースの幼稚園見学者が、「一人の園児に「新しい、きれいな幼稚園でよいですね」と話しかけら、「ウゥーン」と首をふ

りながら「だって砂場がないんだもの。せんの幼稚園から砂場をもつてくれればいいのに」と返事をしたそうである。

はつと氣ずいてみると、なるほどこれだけりっぱにできた幼稚園に砂場が一か所もない。この新園舎に移転してから数か月たつ今日、今もって砂場がつくられていない。園舎使用と同時といつてよくらいに砂場の用意があるべきではなかろうか。と思う存分遊べる砂場、最もながい時間遊ぶ砂場、子どもにとつての最大の必需品を後まわしにした、おとの大きな手落ちである。施設設備の当事者の大きな手ぬかりであつて、子どもの幼稚園生活の実際の場の理解の乏しい、精神の入らない施設設備となつてしまつたのである。幼稚園の遊園に何よりも早く設けられなくてはならないものは砂場であるということをよくいわれている。どんなにきりつめられた経費の中でも遊園には砂場をつくることは第一義に考えられている。この近代的施設のモデルケースの幼稚園の新築にあたつて、砂場の新設あるいは移転が後まわしにされたことは、何といっても大きな手落ちである。そして正直な、遊びに真剣な態度の子どもによつて、いつも率直に指摘されているのである。

## 噴水池

広い大きな運動場の中央に大きな噴水つきの池がいともりっぱにどかつとできている。

まずこの噴水にも問題がなかろうか。それは、この噴水つきの池によつて、広い運動場の広さを半減されてしまつてゐることである。なるほど幼稚園の門をくぐったものにまず眼に入るのはこの噴水であろう。そして幼稚園の美觀の上に一段と効果的であることは確かなことである。しかしこれほど大じかけの噴水つきの池の設置が必要なものであろうか。今一つにはこれが運動場の中央にあるというその位置についてもどうかということである。公園の噴水という感が強く、見るための噴水池というもののようにもみられる。涉々池として夏季の水あそびの場として使う場合のことを思い浮べてみても、この場所はあながちよく考えて作られてゐるといえない。広い運動場の中央にあるこの池で遊んだとして、その後のねれた足の後始末のことである。自然土の中央にあるこの池からすぐに履き物をはくことは實際にはでどういうことになるだろうか。別の足洗い場が園舎近くの廊下つづきの場所にほしと思われる点である。一組四〇人前後の子どもを一人の先生で、しかも子どもめいめいが、自分の足の始末ができるような環境をととのえるといふ見地からみて、この噴水池の位置に問題があるように見える。園舎の美觀ということは後まわしにしたい。

## 分散する保育室

幼稚園の規模はもともと、学級数のあまり多くない小じんまりし

たもののがよいようである。児童数でいうと一〇〇人前後のところが何かにつけて都合よいように思われる。二〇〇、三〇〇という児童をもつ幼稚園では分散する保育室をもつことによって、大勢の児童を二分するとか、三分するとかいうことになって、その大幼稚園の短所を補うことにもなっているのである。ただここにそれにそう教論の数という点である。一組一人の教諭の定員では、三か所、四か所に分散された保育室で、しかもそれぞれの園舎と園舎の距離が相当あって、簡単に両園舎間の往来ができないこともあります、また距離は問題でなくとも、園舎と園舎との間に角度があって、遊園などお互いの間に見通しのつかない位置にあることもあります、病気、出張など教諭の欠員のため一学級一教諭の線の保たれない場合などのことも考えておかなければならない。幼稚園の教諭の定員のきびしい現状と、保育室の分散配置はよく考えあわせなければならない問題ではなかろうかと思われる。

## 保育室の広さ

保育室の広さは設置基準に示されているが、多くは、一二坪、一五坪のところが多いようである。この保育室の広さは保育の実際の状態と直接に関係のあることで、たとえば、教育内容によつても、またその方法によつても異つて、狭い保育室でも支障なく進められるものもあれば、二〇坪あるいはそれ以上広ければ広いほどよいと

いう内容もあり、方法もあるといえるのである。よく簡単に幼稚園は子どもが小さいから狭い保育室でよいとか、小・中・高校の教室の広さなどと比較していわれるときもあるが、それは幼稚園の子どもの生活状態の理解の点にあるのである。

## 保育室のあかるさ

保育室の採光については、近代施設として、窓面積ができるだけ広くとり、こころよい室内のあかるさが保たれているようである。ただここに晴天の日、曇天、雨天の日によって採光に調節のとれるようになっているとなよい。季節により、天気により、子どもたちが、おのずから遊び場所を見定めて遊んでいるようである。あまりに明度の強いところのみをよろこぶとも見えないときも、見受けられるので、子どもがいつどんな場合に、どんな場所を好んで遊んでいるかなどの観察をおこたつてはならない。こんなところで子どもに教えられるときも多いのである。

## 保育室の床について

保育室の床については、その材料、色などに問題がある。保育室はある特定の短かい時間だけ愉快に過せばよいというものではない。むしろ四時間内外の相当長時間子どもたちはその上で遊んでい

るということは原則であるから、あまりに刺激の強くない、その色にもあきない、また最も大切な衛生的の要件の保たれるものであるということである。色彩の美しい刺激の強い敷物などは、一時的に部屋として、その効果をあげることもあるが、保育室の床としてのぞましくない。安価な毒々しい色彩や、質の粗末なものなどは、かえってこれはさけなければならない。清掃に便利なものが保育室の床の点でまず第一にあげたいことで、質のよくない敷物は、その清掃に二倍三倍の手数がかかって、毎日の先生方の負担も、大きくなる。

### 保育室の天井、壁面などの色

色彩研究の専門家などの説によると、保育室の天井、壁の色について、さまざまの意見もあるようである。あるものは、天井の緑色は、青空の感じをそのまま保育室の中にとり入れてよいか、壁は三色ぐらいに区分することによって何々のためによいとか、壁はいう多彩なものになってしまふ。これが子どもが當時いる部屋として適当であるかどうかは問題ではなかろうか。またその色の美しさを保つ上から、二年に一回ぐらいぬりかえをする予定も立てなければといふことにより、その維持費なども考えなくてはならない。経費、環境の点など、常にいろいろの説に耳を傾けることもち

ろん当然ではあるが、要是子ども中心に考えての設備、施設であるという大切なねらいにはすればならないことである。

古きもの、必ずしもとりのぞかなくてはならないこともないと同様に、いつまでもそれを捨てがたいということにも考慮をはらわなくてはならないことはもちろんである。新しきものの長所は長所として素直に受け入れたい。ただ新しいという名のもとにあえて不便をしのぶべきではない。

\*

「施設と子ども」のすべり出しとして、きいたり、みたりのうちからいろいろあげてみた。新しい施設の長所はもとより多い。ここではあえてそれには及ばなかつた。これにつづかれる方はその辺にふれてもらいたい。

\*

\*

\*